

金融経済ナビ [指導のポイント]

まなぼう！金融経済 債券の講座

1. コンテンツから導き出される授業の狙い

関心・意欲・態度

- 銀行からの借入れや株式の発行のほかに、「債券」があることを知る。
- 資金を調達する手段として債券を発行している機関や団体があることを知り、資金調達の内容について関心を持つ。

思考・判断

- 債券市場の特徴を理解し、株式市場と区別することができる。
- 増える国債に対して自分なりの意見を形成し、国債による資金の使途に対して自分の考えを言うことができる。

知識・理解

- 債券の種類(発行体)を挙げながら、その使途を説明できる。
- 債券の価値は利回りによって判断できること、金利と密接に関係していることを説明できる。

技能・表現

- 債券の種類(発行体)を挙げながら、その使途を図示できる。
- 投資の手段としての債券を、預貯金・株式などと比較する。

2. 指導の前提

- 公民の教科書の、日本の財政や公債に関わる授業と並行して、あるいはその後に利用するのが有効です。
- 公民の教科書の、社会資本に関わる授業を先に行っておくと、建設国債の理解がスムーズになると考えられます。
- コンテンツ「金融経済の基礎知識/金融の仕組みと役割」で金融の必要性を学んでおくと理解がスムーズになります。
- コンテンツ「株式会社と債券」は、事前に「株式の講座/株式と株式会社」を先に学ぶことをおすすめします。
- コンテンツ「債券と利回り」は金融商品としての特性を学ぶ内容のため、「株式の講座/株価はなぜ動く」「ライフプランと資産運用の講座/資産運用とは、資産運用をする」等を先に学ぶことをおすすめします。

3. 指導・評価計画

コンテンツ	学習活動	指導の留意点:狙い(●)と評価(■)
(1)債券とは	i. 借入れや株式の発行のそれぞれの特徴を振り返り、ほかにも資金調達の方法があることを知る。	● 借入れや株式以外の、資金調達手段を理解させる。 ● 債券にはいくつかの種類があることを理解させる。 ● 債券も売買が行われ、市場があることを理解させる。 ■ 資金調達手段として、債券を挙げることができる。 ■ 「国債」「地方債」「社債」「外国債」を挙げることができる。 ■ 「発行市場」「流通市場」を挙げ、違いを説明できる。
(2)国債とは	i. ニュースなどでもよく取り上げられる国債残高について、どのような内容であったか問いかけ、どのような状況であるかをデータを見ながら調べさせる。	● 国の債券にも複数の種類があることを理解させる。 ● 建設国債と赤字国債の使途と理解させる。 ● 増える国債残高に危機感を持たせる。 ■ 「建設国債」「赤字国債」が挙げられる。 ■ 国債の残高や増加ペースを説明できる。
(3)株式会社と債券	i. 株式発行と債券発行について、それぞれの違いを調べさせる。※本サイトのコンテンツ「株式の講座/株式と株式会社」参照	● 社債を株式発行と並ぶ資金調達手段として理解させる。 ■ 株式との違い(返済義務、利子など)を説明できる。 ■ 経営権に関わる点も説明できる。
(4)債券と利回り	i. 利率1%で10年満期、額面100万円の国債を満期まで持っていたら、受け取るお金は合計でいくら?などと問いかけ、単純な利率について理解させる。その上で、債券は満期を待たずに売却することができることから、同じ利率の国債であっても、価格や利回りが変わることを計算させる。	● 債券も株式のように価格を変え売買されることを理解させる。 ● 債券の価格は金利の動きと密接な関係にあることを理解させる。 ■ 「金利」「利回り」を挙げ、各語句をおおよそ説明できる。 ■ 金利の動きに合わせ債券の価格がどう変化するか説明できる。

4. 学習の発展

本サイト内コンテンツ「ウォーキング in 金融経済タウン」の、「株式会社」「証券会社」で、より詳しい知識を学習ができます。

〈関連項目〉

まなぼう！金融経済	「株式の講座/株式と株式会社」「資産運用とライフプランの講座/資産運用とは、資産運用をする」
ウォーキング in 金融経済タウン	「財務省」「株式会社」「証券会社」「証券取引所」「日本銀行」
動画教材「熱血ケーザイ家族！」	第1話「金融資産とファッションの選び方は同じ?」の巻、第9話「金利はなぜ動くの?」の巻
学校向け教材	